

推薦 基礎学力検査 国語

出題分析

1 出題数

大問2題の構成である。小問が18問、解答数が45個で、試験時間は50分である。

2 出題形式

大問1は、小問が6問ある。漢字の読み書き、言葉の意味、四字熟語を題材にした問題が出題され、解答数は20個ある。大問2は、論理的な文章を用いた問題である。小問数は12問で、解答数は25個ある。漢字の読み書き10問と、最適な語句を書き抜く問い2問が記述式で、その他はすべて選択式である。接続語の問い以外は、5つの選択肢から選ぶ形式である。

3 出題傾向

大問1は順に、漢字の書き3問、漢字の読み3問、言葉の意味・用法3問、慣用句の意味4問、四字熟語の漢字穴埋め4問、四字熟語の意味3問という出題である。四字熟語を含めた漢字の読み書きに関わる問題や四字熟語を含めた言葉の意味・用法に関わる問題も出題されている。大問2は、論理的な文章を題材に、総合的な国語力が試される。空所補充問題・脱文補充問題、傍線部の理由や説明を問う内容把握問題、内容合致問題などの読解問題のほかに、漢字の読み書き、慣用句の意味、口語文法問題など、出題内容は多岐にわたり、多角的に国語力を見る問題となっている。

4 難易度

大問1は、全体として基本～標準的なレベルの出題が多い。大問2は、3000字超の論理的文章が題材で、文章の難易度はやや高く、普段からこのような論説文に読み慣れていないと戸惑うことになる。また、出題内容も多岐にわたるので、文章内容を読み取る力とともに、確実に根拠をおさえて解答する力が求められる。なお、全体として試験時間50分に対し解答数が45個と多いため、普段から時間配分を意識して、解くスピードをあげておくことが重要である。

受験対策

1 漢字力・語彙力を固めよう

四字熟語を含めた漢字の読み書き、四字熟語や慣用句の意味、言葉の意味・用法に関わる問題が多いため、この2分野において確実に得点できる力を身につけることが大切である。まずは、漢字や語彙に関する問題集に取り組み、この分野の基礎力をつけるようにしよう。また、日ごろから辞書等で言葉の意味・用法を確認することも効果的である。

2 読解力を高めよう

日常の読書を通してさまざまなテーマの文章を読むようにしよう。また、読解力を高めるための問題演習を行うことも有効だ。その際には、答えが合っているかどうかにかかわらず、解答の根拠を見つけようと努め、解き終わったら自分の解き方と正しい解き方を比較するようにしたい。読解力は大学入試突破のみならず、大学入学後にも必要となる重要なものである。この点を意識して毎日の課題に取り組もう。

3 過去問題を活用しよう

過去問題を有効的に活用することも重要である。早期に過去問題に取り組むことで、出題傾向や自分の弱点が把握できるようになる。それをもとに、どの分野の学習に力を入れるべきかなど学習の指針が得られ、計画的な学習が可能になる。また、入試対策の総仕上げとして、入試直前には過去問題に集中して取り組み、時間配分を身につけ、時間内に全問解答できるようにしよう。